

オルビア WS 事前建築視察旅行

フィレンツェ&シエナ編

2025. 8/28～2025. 8/30

修士1年 齋藤 巧

はじめに

私たちは2025年9月にイタリアのサルディーニャ島で行われたワークショップに参加しました。ワークショップの1週間前から建築視察旅行を行い、この建築視察旅行には学生6名、教員2名、チューター1名が参加し、ローマ、フィレンツェ、シエナの3都市をめぐる予定です。建築史を専門とされる堀先生と海外の建築に精通している藍谷先生のガイドのもとに、多くのことを学びました。

目次

1. 建築視察旅行の概要
2. 滞在したホテル
3. 1日目ーフィレンツェ市街地
4. 2日目ーシエナ市街地
5. 番外編ーフィレンツェの料理
6. まとめ

1. 建築視察旅行の概要

3日間のローマでの建築視察旅行を終えたのち8月28日に高速鉄道 Italo でローマのターミナル駅からフィレンツェ駅まで移動しました。その後フィレンツェ駅前のホテルにチェックインし、フィレンツェ市街地を散策しました。8月29日の午前中はフィレンツェの建築視察、午後はバスに乗ってフィレンツェの隣町シエナを訪れシエナの市街地を散策しました。



2. 滞在したホテル

私たちが滞在したホテルはホテルローマというヨーロッパを中心に展開しているチェーンホテルでした。サンタマリアノヴェッラ教会前の広場に面していて、朝から晩まで観光客や地元民でにぎわっているエリアでした。広場ではストリートミュージシャンやボール遊びをする子供たち、物を売る商人と多くの人が行き交い日本にはない空気感でした。

朝食はビュッフェスタイルで毎朝10種類以上のクロワッサンや地中海産のフルーツを食べることができました！



3. 1日目ーフィレンツェ市街地

フィレンツェに到着しホテルにチェックインした後、まず初めにフィレンツェ・サンタ・マリア・ノヴェッラ駅 (Firenze Santa Maria Novella) を訪れました。この駅は、1935年に完成したイタリア合理主義建築 (ラショナルイズム建築) の代表作であり、同時にファシズム期の公共建築を象徴する存在でもあります。設計を手がけたのは、ジョヴァンニ・ミケルッチを中心とする若手建築家グループ、グルッポ・トスカーノ (Gruppo Toscano) で、1932年に行われた設計コンペティションにおいて選定された案です。

この駅が特殊なのは、ムッソリーニ率いるファシスト政権のもとで誕生した建築でありながら、その政権崩壊後 (1943年) も、グルッポ・トスカーノの設計意図と建築的価値が高く評価され、建物がそのまま存続している点です。多くのファシズム建築が戦後に否定的な評価を受けた中で、フィレンツェ・サンタ・マリア・ノヴェッラ駅は政治的文脈を超えた建築的純度と都市への調和によって、現在に至るまで保存・利用され続けています。



その後、広場を抜けポンテ・ヴェッキオ橋に向かいました。フィレンツェを代表する歴史的建造物の一つであるポンテ・ヴェッキオ橋は、アルノ川に架かる最古の石橋として知られています。この橋の最大の特徴は、橋上に商店が並ぶ独特の構成です。16世紀後半、フィレンツェを統治していたメディチ家の命により金細工師や宝飾職人の工房や店が橋上に作られた建物に配置されました。これにより、橋全体が優雅で華やかな商業空間へと変貌を遂げ、現在もその伝統が受け継がれています。



その後夕日が沈むタイミングに合わせてフィレンツェの中心にそびえるサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂に向かいました。二重ドームの中の長い階段を上った後の上からの景色は最高でした！サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂はルネサンス建築の原点ともいえる存在であり、着工から140年後の1436年に完成した建築です。この聖堂の1番の特徴は上部にある巨大なドームであり、フィリッポ・ブルネレスキ（Filippo Brunelleschi）により設計されたものです。



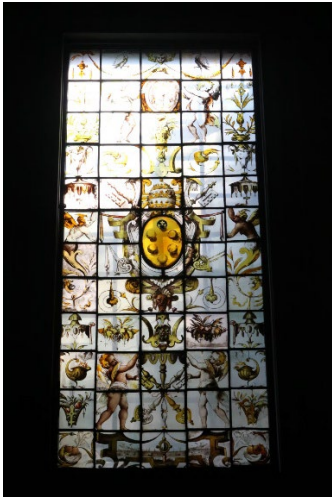
その後は夕食を食べ、夜の街を散策しました。ポンテ・ヴェッキオ橋は夕方と夜では違った空間でした。夜のミケランジェロ広場は昼間とは異なり人数が少なく新鮮な空間でした。メリーゴーランドにも乗りました（笑）。



4. 2日目ーフィレンツェ&シエナ市街地

フィレンツェでの2日目は、早朝からサン・ロレンツォ聖堂附属ラウレンツィアーナ図書館 (Biblioteca Medicea Laurenziana) へ向かいました。ラウレンツィアーナ図書館は、ルネサンス期の巨匠フィリッポ・ブルネレスキの後継者として知られるミケランジェロ・ブオナローティ (Michelangelo Buonarroti) によって設計された図書館です。図書館入り口の階段が特徴的でみんなでカッコいい写真を撮りました (笑)。

図書館を出た時に正面に見える1か所だけ白い壁は、図書館から出てきた利用者に何を学んだのかを考えさせるためのものだそうで、建築が機能や装飾を超えて精神的体験を喚起する芸術であることを示したものだと感じました。



図書館を出た後はシニョーリア広場を抜けサント・スピリト教会へ向かいました。シニョーリア広場は、フィレンツェの政治と市民生活の中心として機能してきた歴史的広場です。13世紀末に形成され、周囲には現在はフィレンツェ市役所として使われているヴェッキオ宮殿やウフィツィ美術館など、フィレンツェ共和国時代の中核建築が立ち並んでいました。この広場は、都市の権力構造と芸術的精神が交差する場所として、フィレンツェの政治・文化の核心を担ってきました。堀先生の解説もあり行くだけでは知れないことをたくさん知ることができました！



その後に向かったサント・スピリト教会はボコボコしたファサードが印象的でした。フィリッポ・ブルネレスキ (Filippo Brunelleschi) によって 15 世紀半ばに設計されたこの教会はラテン十字形を基調とした平面が大きな特徴です。外観のシンプルさとは対照に内部は 40 個の半円形の小礼拝堂が均等に並び、主身廊を取り囲むように配置されていました。



お昼ご飯を食べた後バスに乗り 1 時間ほどかけてシエナに向かいました。シエナではまずカンポ広場に行きました。「カンポ (Campo)」はイタリア語で「野原」を意味し、かつてこの地が市の中心として整備される前は牧草地であったことに由来しているそうです。「世界一美しい広場」と称されるだけあって多くの人でにぎわう心地よい空間でした！広場の全体形状は貝殻を広げたような放射状の扇形で、全体に緩やかな傾斜を設け市庁舎であるプブリコ宮殿へと向かっています。この形状と傾斜により、広場に集まる人々の視線が自然と宮殿正面へと導かれ、都市の統治機関の存在を強く意識させる構成となっているそうです。シエナの街にはシンプルなファサードの建物や公共空間が多くローマとは違った街並みを楽しむことができました！



5. 番外編～料理～

ここで番外編としてフィレンツェ&シエナで食べたおいしい料理を紹介します！朝ごはんのビュッフェ以外は基本的に自由に決めることができたため、学生各々が食べたいものを探したくさんのイタリア料理を食べました！個人的に1番おいしかったのはフィレンツェで食べた骨付き肉です！肉の焼き加減や味付けもたくさんあり初めての経験でした。



6. まとめ

今回のフィレンツェとシエナでの建築研修旅行は、とても貴重で刺激的な経験となりました。視察は早朝～正午と夜の比較的過ごしやすい時間帯を中心に実施されたため、午後は学生だけで行動する時間も多くあり、ヨーロッパでの自由行動はとても新鮮でした。交通手段の使い方やイタリア語が分からず苦戦する場面も多々ありましたが、英語で道を尋ねたり、身振り手振りで意思を伝えたりしながら何とか乗り越え、最終的に目的地にたどり着けたのはとても良い経験になりました。1週間の視察旅行を楽しみ過ぎてハトハトでサルディーニャ島に向かったのもいい思い出です（笑）。終始笑いの絶えないとても充実した旅になりました！